

小豆島町
すくすく子育ち応援
アクションプラン
Ver.7

みんなでつくる
子育ちの輪

小豆島町 子育ち共育課

小豆島町すくすく子育ち応援アクションプラン

小豆島には、豊かな自然や先人が培ってきた伝統、文化、産業、人と人の絆などたくさんの宝物があります。しかし、それらたくさんの宝物の継承が難しくなりつつあります。また、未来を担う子どもたちの健やかに育つ環境が失われ、夢や誇りを持つことが難しくなろうとしています。

こうした問題を解決するために、新たな視点と発想による様々な取り組みを実施する必要があります。

このアクションプランは、小豆島の宝物を守るとともに未来を担う子どもたちが健やかに育つことを目的とし策定します。

併せて、「子ども・子育て支援法」に基づく、子ども・子育て支援事業計画も兼ねています。

このアクションプランは、平成27年度から31年度までの5か年計画です。現時点で必要と思われる施策を掲げていますが、全てを網羅したものではありません。新たな見直しが必要な場合は、随時、追加・修正して取り組みます。また、計画の検証と見直しを毎年行い、計画期間終了時にも、計画全般の検証を行い、新たな計画をつくることとします。

※このアクションプランでは、親が子を育てる“子育て”とともに、子どもが自らの力で育つことを含めて、“子育ち”を使っています。

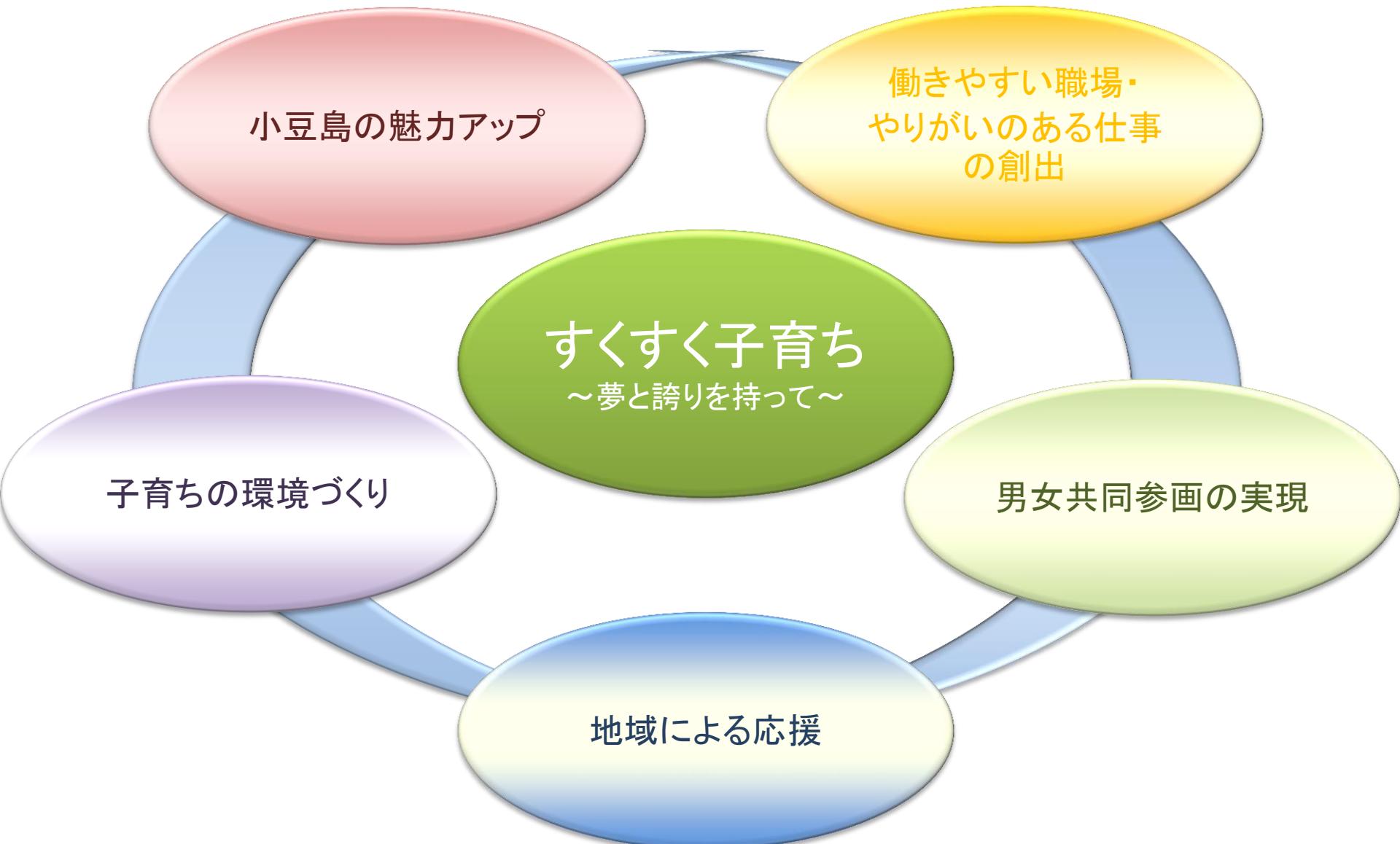
今ここにある課題

- 少子高齢化が急速に進行している。
- 人口が急速に減少し、若年女性人口が大幅に減少すると予測されている。
- 小豆島の自然・伝統・文化・産業・絆の継承が困難になりつつある。
- 未来を担う子どもたちが、健やかに育つ環境が失われ、夢や誇りを持つことが難しくなるとしている。

課題の解決に向けて

- 町に住む一人一人が誇りを持って、みんなで考え、行動する。
- 小豆島で子育ちがしたくなる楽しい町づくりをする。
- 高齢者や企業など地域のみんなが子育ちに参加し、応援する。
- それぞれのライフスタイルに応じた多様な働き方を応援する。

小豆島町のこれからの子育ち応援のデザイン



小豆島町のこれから子育ち応援のデザイン

小豆島の魅力アップ
(6~9)

働きやすい職場・
やりがいのある仕事
の創出
(10~17)

男女共同参画の実現
(18~23)

地域による応援
(24~39)

子育ちの環境づくり
(40~53)

- 自然・文化を生かした教育
- 芸術体験
- 「子どもを産み育てたくなる島」からの情報発信

- 専門性を生かせる職場を増やし、U・J・Iターン者を増やす
- 起業家の移住・定住を促進する
- フレキシブル勤務

- 育児・家事の役割分担
- 産後ケア
- 地場産業の強化

- 出会いの輪創出
- 世代を超えた交流
- 豊富な経験・知識の活用

- 誰もが集まりたくなる場所を作る
- 若い世代の負担軽減
- 小豆島こどもセンターの充実
- ICTの活用
- ふるさと教育の推進
- 幼・保、小、中、高の一貫教育の推進



構 成

- 1. 小豆島町のこれから子育ち応援のデザイン
(6~53)**

- 2. 子ども・子育て支援法第61条第1項に基づく
市町村子ども・子育て支援事業計画
(54~64)**

小豆島の魅力アップ

自然・文化を生かした教育



・自然を生かした園外保育

●海、山、そして、オリーブ公園、二十四の瞳映画村、寒霞渓など年間を通して、四季を感じながら、のびのびと体を動かします



・郷土を知る教育

●秋祭り、中山地区の農村歌舞伎、福田地区の獅子舞、安田地区の安田おどりなど、自分の住んでいる地域の良さを知り、ふるさとを愛する心を育てます



・田植え、野菜づくりなどの農業体験



・映画、演劇によるまちづくり



●子どもたちが、自分で見たり、聞いたり、触れたり、感じたりする直接体験を通して、豊かな心を育みます

・オリーブを活用した木育



●オリーブの積み木を製作し、木の持つ「温もり」や「優しさ」に触れ、子どもの五感に働きかけるとともに、感性豊かな心の発達と郷土を愛する心を育てます。



・ワークショップの開催



・アーティスト、クリエイターとの交流

●アートだけでなく、音楽、演劇、食といった、さまざまな分野のワークショップが開催されています



・伝統芸能を取り入れたあそび

・芸術作品鑑賞

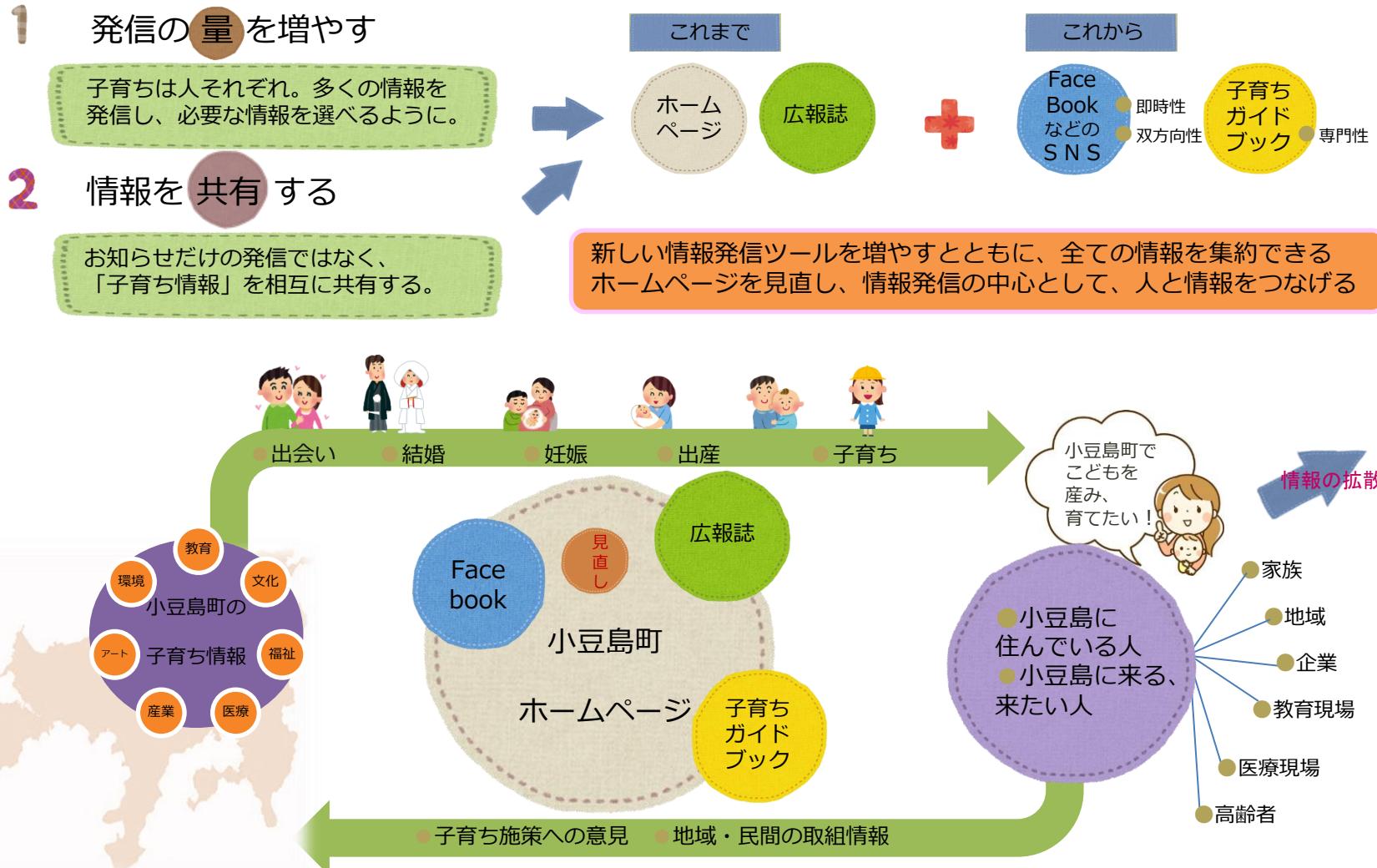
●瀬戸内国際芸術祭の作品が数多く残されており、身近にアート作品を感じることができます



小豆島の魅力アップ

目的	<p>小豆島の自然を生かした保育・教育を行うことにより、『ふるさとを愛し、人間性豊かで、たくましく未来に生きる人づくり』を実現する。</p> <p>子育ち中の親子はもちろん、これから子育ちをする人、島への移住を考える人にとって、「小豆島で子育ちがしたい！」と思ってもらえるように、保育・教育内容をさらに充実させていく。</p>	内 容	●自然・文化を生かした教育 ・田植えや野菜づくりなど、子どもたち自らが体験することで食べ物やまわりの人たちへの感謝の気持ちを育てる。 ・海や川、オリーブ公園や寒霞渓など、島の四季を感じられる場所に出かけ、季節ごとの美しさを知り、体を動かす楽しさを知る。 ・秋祭り、中山の農村歌舞伎など、伝統文化にふれ、自分の住んでいる地域の良さを知る。 ・伝統産業である醤油、佃煮、オリーブ、素麺の歴史や、島の観光名所の歴史を学ぶ。 ・オリーブの積み木を製作し、木の持つ「温もり」や「優しさ」に触れ、子どもの五感に働きかけるとともに、感性豊かな心の発達と郷土を愛する心を育む(かがわ健やか子ども基金事業を活用)。
	主管課	子育ち共育課など	
	現状	田植え、イチゴ狩りなど、各幼稚園・各保育所(園)等において実施	
	目標年度	計画期間中継続実施	
●芸術体験 ・瀬戸内国際芸術祭から続くアーティスト、クリエイターとのつながりを大事に、町内の教育施設等においてワークショップを開催する。さらに、瀬戸内国際芸術祭を通して、子どもたちとのコラボレーションなど内容を充実させていく。	目標数等	子どもたちが身近にある豊かな自然、文化などの中で様々な体験を通して、小豆島の良さを知り、ふるさとを愛する心を育む	
	主管課	子育ち共育課など	
	現状	島民演劇 平田オリザさんによる演劇ワークショップ(中学生対象) 『劇団ままごと』と安田幼稚園児のコラボレーション UmakiCampでピザづくり アート作品の鑑賞	
	目標年度	計画期間中継続実施	
	目標数等	様々な芸術体験を通して豊かな心を育む	

「子どもを産み育てたくなる島」からの情報発信



確実な情報発信で「安心して子どもを産み育てることのできる島」へ！

小豆島の魅力アップ

目的	人それぞれの子育ちを応援するために、多くの情報を発信・共有し、小豆島で安心して子育ちができるようとする。		
内 容	ホームページの見直し 広報誌やSNS、子育ちガイドブックなどすべての情報を掲載することのできるホームページを情報発信の中心とする。	主管課	企画財政課(広報チーム)、子育ち共育課など
		現状	情報がわかりにくく、即時性がない
		目標年度	平成27年度から実施
内 容	SNSの活用 子育ち世代の多くが利用しているSNSを活用し、情報がリアルタイムで入るように、かつ双方向での情報発信ができるようにする。	目標数等	ホームページを見直しし、わかりやすい子育ち情報ページを作成する。 ・町HP内子育ち共育課へのアクセス数 H27:180件/月→H31:270件/月→ H31:550件/月
		主管課	企画財政課(広報チーム)、子育ち共育課など
		現状	子育ち世代が手軽に利用できる情報発信ツールが少ない
内 容	子育ちガイドブック 子育ち関連情報をガイドブックで作成し、子育ち世帯に配布する。	目標年度	平成27年度から実施
		目標数等	SNSを導入し、小豆島町の様々な施策をえた子育ち情報を提供する
		主管課	子育ち共育課
		現状	縦割り的に情報を提供している
内 容	子育ちガイドブック 子育ち関連情報をガイドブックで作成し、子育ち世帯に配布する。	目標年度	平成27年度から実施→ H28実施済
		目標数等	引き続き 、子育ち関連情報をガイドブックで作成し、子育ち世帯に配布

働きやすい職場・やりがいのある仕事の創出

～ 専門性を生かせる職場を増やし、U・J・I ターン者を増やす ～

小豆島中央病院開設

地域医療と福祉の連携により
町民一人一人の健康増進を目指す

医 師

保健師

看護師

言語聴覚士

作業療法士

理学療法士など



新規就農者支援事業

新規就農しやすい環境づくりを目指す

就農支援

要件緩和
営農指導
農地斡旋
資金援助
設備支援

新規
就農者

自立
定住

助言

移住者を含む
就農希望者



アプローチ

オリーブトップワンプロジェクト

小豆島産オリーブオイル等の高品質化を追求し
ブランド力の強化を目指す

人材育成

品質の
差別化

研究開発

イメージ戦略

5歳児健診の充実

発達障害児の健やかな成長と
家庭支援の充実を目指す

小児科医

言語聴覚士

早期発見

発達
障害

早期支援

保 健 师

臨床心理士

働きやすい職場・やりがいのある仕事の創出

目的	<p>高校卒業後、70%を超える生徒が大学等へ進学する中、専門性を生かせる職場を確保し、Uターン者を増やすとともに、J・Iターン者も増やす。</p> <p style="text-align: right;"><u>目標：U・J・I ターン数（検討中）</u></p>																
内容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">小豆島中央病院開設 医師や看護師、保健師等を確保し、地域医療と福祉を充実させる。</td><td style="padding: 5px; vertical-align: bottom; text-align: center;">済</td><td style="padding: 5px;">実施主体 現状 目標年度 目標数等</td><td style="padding: 5px;">小豆島中央病院企業団 内海病院では常勤医師が不足し、経営が悪化している 新規 平成28年度から実施 医師や看護師、保健師等医療スタッフを確保し、地域医療と福祉を充実させる</td></tr> <tr> <td style="padding: 5px;">オリーブトップワンプロジェクト 小豆島産オリーブオイル等の高品質化を追求し、ブランド力を強化するとともに、後継者を育成し、産地を守り育てる。</td><td style="padding: 5px; vertical-align: bottom; text-align: center;"></td><td style="padding: 5px;">主管課 現状 目標年度 目標数等</td><td style="padding: 5px;">オリーブ課 栽培面積 97ha 平成29年度に第Ⅲ期計画策定 平成31年度の栽培面積 110ha</td></tr> <tr> <td style="padding: 5px;">新規就農者支援事業(専業・兼業農家対象) オリーブ、水稻を中心にベテラン農業者(アグリサポーター)による栽培指導、また、農地取得下限面積の緩和(10→5a)や遊休農地のあっせん、青年就農給付金等の就農関係資金の援助、イチゴやアスパラなどの施設園芸希望者への設備の改修補助などにより、新規就農しやすい環境づくりを目指す。</td><td style="padding: 5px; vertical-align: bottom; text-align: center;"></td><td style="padding: 5px;">主管課 現状 目標年度 目標数等</td><td style="padding: 5px;">農林水産課 新規就農者(H24.25) 5戸 計画期間中継続実施 計画期間中の新規就農者25戸(検討中) →1戸/年の増を目指す</td></tr> <tr> <td style="padding: 5px;">5歳児健診の充実 言語聴覚士等を確保し、発達障害児の早期発見と、その家庭への早期支援を行う。</td><td style="padding: 5px; vertical-align: bottom; text-align: center;"></td><td style="padding: 5px;">主管課 現状 目標年度 目標数等</td><td style="padding: 5px;">子育ち共育課、小豆島中央病院企業団、健康づくり福祉課 健診後のアフターケアが十分できていない 計画期間中継続実施 言語聴覚士等を確保し、アフターケアを確立する</td></tr> </table>	小豆島中央病院開設 医師や看護師、保健師等を確保し、地域医療と福祉を充実させる。	済	実施主体 現状 目標年度 目標数等	小豆島中央病院企業団 内海病院では常勤医師が不足し、経営が悪化している 新規 平成28年度から実施 医師や看護師、保健師等医療スタッフを確保し、地域医療と福祉を充実させる	オリーブトップワンプロジェクト 小豆島産オリーブオイル等の高品質化を追求し、ブランド力を強化するとともに、後継者を育成し、産地を守り育てる。		主管課 現状 目標年度 目標数等	オリーブ課 栽培面積 97ha 平成29年度に第Ⅲ期計画策定 平成31年度の栽培面積 110ha	新規就農者支援事業(専業・兼業農家対象) オリーブ、水稻を中心にベテラン農業者(アグリサポーター)による栽培指導、また、農地取得下限面積の緩和(10→5a)や遊休農地のあっせん、青年就農給付金等の就農関係資金の援助、イチゴやアスパラなどの施設園芸希望者への設備の改修補助などにより、新規就農しやすい環境づくりを目指す。		主管課 現状 目標年度 目標数等	農林水産課 新規就農者(H24.25) 5戸 計画期間中継続実施 計画期間中の新規就農者25戸(検討中) →1戸/年の増を目指す	5歳児健診の充実 言語聴覚士等を確保し、発達障害児の早期発見と、その家庭への早期支援を行う。		主管課 現状 目標年度 目標数等	子育ち共育課、小豆島中央病院企業団、健康づくり福祉課 健診後のアフターケアが十分できていない 計画期間中継続実施 言語聴覚士等を確保し、アフターケアを確立する
小豆島中央病院開設 医師や看護師、保健師等を確保し、地域医療と福祉を充実させる。	済	実施主体 現状 目標年度 目標数等	小豆島中央病院企業団 内海病院では常勤医師が不足し、経営が悪化している 新規 平成28年度から実施 医師や看護師、保健師等医療スタッフを確保し、地域医療と福祉を充実させる														
オリーブトップワンプロジェクト 小豆島産オリーブオイル等の高品質化を追求し、ブランド力を強化するとともに、後継者を育成し、産地を守り育てる。		主管課 現状 目標年度 目標数等	オリーブ課 栽培面積 97ha 平成29年度に第Ⅲ期計画策定 平成31年度の栽培面積 110ha														
新規就農者支援事業(専業・兼業農家対象) オリーブ、水稻を中心にベテラン農業者(アグリサポーター)による栽培指導、また、農地取得下限面積の緩和(10→5a)や遊休農地のあっせん、青年就農給付金等の就農関係資金の援助、イチゴやアスパラなどの施設園芸希望者への設備の改修補助などにより、新規就農しやすい環境づくりを目指す。		主管課 現状 目標年度 目標数等	農林水産課 新規就農者(H24.25) 5戸 計画期間中継続実施 計画期間中の新規就農者25戸(検討中) →1戸/年の増を目指す														
5歳児健診の充実 言語聴覚士等を確保し、発達障害児の早期発見と、その家庭への早期支援を行う。		主管課 現状 目標年度 目標数等	子育ち共育課、小豆島中央病院企業団、健康づくり福祉課 健診後のアフターケアが十分できていない 計画期間中継続実施 言語聴覚士等を確保し、アフターケアを確立する														

働きやすい職場・やりがいのある仕事の創出

～ 専門性を生かせる職場を増やし、U・J・I ターン者を増やす ～

福祉職の雇用・活用

介護施設

介護福祉士

社会福祉士

管理栄養士など



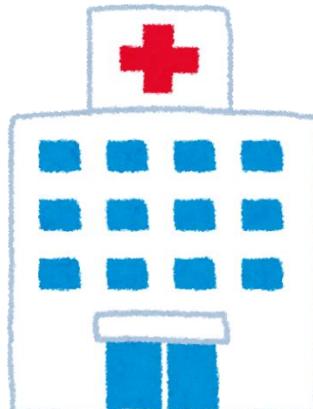
助産師

幼稚園教諭

薬剤師

保育士

診療放射線技師など



働きやすい職場・やりがいのある仕事の創出

目的	高校卒業後、70%を超える生徒が大学等へ進学する中、専門性を生かせる職場を確保し、J・Iターン者を増やすとともに、J・Iターン者も増やす。
内容	<p>介護福祉士や社会福祉士等を確保し、地域医療と福祉を充実させ、町民一人一人の健康を増進する。 また、観光施設等で雇用することにより、施設利用者へのサービスの充実を図る。</p> <p>主管課 健康づくり福祉課、高齢者福祉課、小豆島中央病院企業団、子育ち共育課</p> <p>現状 介護福祉士は慢性的に不足している</p> <p>目標年度 計画期間内継続実施</p> <p>目標数等 介護福祉士や社会福祉士等を確保し、地域医療と福祉を充実させ、町民一人一人の健康を増進する また、観光施設等で雇用することにより、施設利用者へのサービスの充実を図る</p>

働きやすい職場・やりがいのある仕事の創出

～起業家の移住・定住を促進する～

起業・設備投資支援

“新しい産業づくり条例”を
生かした取り組み

サテライトオフィスの促進

“時間の有効活用” “子育ちと就労の両立”



パワフルな移住者の起業化を支援

移住者パワーによるまちづくり

島の新しい事業を創造する有能な移住者を積極的に支援



NPO法人トティエとの連携

・就労者シェアハウスの整備、運営、体験移住施設の運営



空き家バンク充実事業

・NPO法人トティエ等との連携による登録物件の掘り起し
・登録物件の修繕費助成



働きやすい職場・やりがいのある仕事の創出

目的	起業家の移住・定住を促進する		
内 容	“新しい産業づくり条例”を生かした取り組み 既存企業の規模拡大、新規企業の進出を支援することにより、地域経済の発展と雇用機会の拡大を図る。	主管課	商工観光課、企画財政課
	現状	企業誘致4件、起業家支援0件(H25)	
	目標年度	計画期間中継続実施	
	目標数等	毎年企業誘致4件、起業家支援新規1件	
	サテライトオフィスの促進 移住者による新しい事業の創造を支援、空き家を活用した拠点となるオフィスの整備など、自宅での就労ができることで、安心して子育ちができるとともに、新たな起業の促進を図る。	主管課	企画財政課、商工観光課
	現状	島内全域に光ファイバーを整備しており、自宅でのIT関連事業などが可能である。	
	目標年度	平成27年度から実施	
	目標数等	起業件数3件※産業づくり条例との重複あり	
	移住者(U・J・Iターン)パワーによるまちづくり 小豆島の優れた自然、伝統や文化、暮らしを守り、さらに発展していくために、移住促進や地域おこし協力隊制度等を活用し、小豆島にはない新しい視点によって地域の活性化を図る。	主管課	企画財政課
	現状	移住者数(U・J・Iターン)273名(H25年度) 地域おこし協力隊員6名(H27.1月時点)	
	目標年度	計画期間中継続実施	
	目標数等	移住者数(J・Iターン) 100人移住うち50人定住	
空き家バンク充実事業 增加傾向にある空き家を、移住者の住居として活用することで、空き家の廃墟化の防止と移住促進を図る。 空き家バンクへの登録を推進するために、賃貸空き家物件の改修費助成等を行う。	主管課	企画財政課	
	現状	空き家バンク登録数 127件 (H19年度～H26.12月末累計)	
	目標年度	計画期間中継続実施	
	目標数等	年間新規登録件数 20件以上	
NPO法人トティエとの連携 町の移住施策の一部を担うNPO法人トティエが平成28年4月に設立、空き家物件の掘り起し、多様な活用、体験施設の運営、島暮らしツアーや企画・運営等のほか、「産業支援・住まいの提供・空き家等有効活用」を一体的に取り組む就労者シェアハウスを整備するなど、行政との密な連携により、移住・定住の促進を図る。	主管課	企画財政課	
	現状	体験施設3件運営、就労者シェアハウス整備中	
	目標年度	計画期間中継続実施	
	目標数等	体験施設稼働率60%・シェアハウス稼働率70%	

働きやすい職場・やりがいのある仕事の創出

家庭での育児・介護
を支援



保育士確保



フレキシブル勤務

都合のいい時間に勤務する
徐々に仕事に慣れる

柔軟な雇用形態の
啓発

潜在有資格者の
活用

“自信がついた”
“フルタイム働きたい”

“パート勤務がいい”

フルタイム勤務へ

パート勤務を継続

働きやすい職場・やりがいのある仕事の創出

目的	都合のいい時間に勤務するフレキシブル勤務を推進することにより、家庭での育児や介護を応援するとともに、慢性的に不足している保育士など潜在する有資格者を確保し、質の高い保育を実施する。 また、各地で展開する多世代交流拠点活動やイベント等での託児サービスの応援など地域に潜在する有資格者が子育ちにかかわれるよう応援する。		
内容	<p>フレキシブル勤務 保育士等資格を持つ者が都合のいい時間に勤務できる よう柔軟な雇用を行う。 潜在する有資格者が様々な場面で子育ちにかかわれる よう応援する。</p>	主管課 現状 目標年度 目標数等	子育ち共育課 保育士等資格者が活躍できていない 平成27年度から実施 保育士等資格者を柔軟な勤務体制で雇用 することにより確保するとともに、多世代交 流拠点活動等へのかかわりなどを推進する。 ・公立保育所フレキシブル勤務者数 H27:1名→H31:2名

男女共同参画の実現

育児・家事の役割分担

産後ケア事業

●プレママ・プレパパのマタニティ教室開設 ～夫婦で安心して出産を迎えよう～

- 産婦人科医師・助産師等によるお話
 - ・出産に向けて
 - ・産後の育児
 - ・パパの関わり方

- ・妊娠中の栄養指導



- 実習講習
 - ・赤ちゃんを抱っこする感じって？
 - ・オムツをうまく替えられるかな
 - ・妊婦ってどんな感じだろう

- ゆったりと出産を迎えよう
 - ・マタニティヨガ
 - ・マタニティコンサート

- 出産後のご家族に進呈
 - ・アルバム
 - ・ベビー用品

●父親、祖父母の育児啓発

～ 子育ちは母親だけに課せられた義務でしょうか？ ～

- 小児科医師・助産師等によるお話
 - ・産後の育児
 - ・父親、祖父母の関わり方

- 実技講習
 - ・お風呂の入れ方は？湯の温度・準備物は？
 - ・オムツ替えも慣れてきたら簡単？
 - ・パパの名シェフぶりを披露

小豆島中央病院で実施



●子育てひとやすみ

～ がんばりすぎて笑顔がくもっていませんか～

○託児サービス

イベントに参加したいのに、子どもが小さいから参加しにくい
…そんなときのために



○託児ボランティア事業の実施

子育て中のお母さん、お父さんが講演会や研修会に参加する間、
ボランティアが子どもさんを預かります

○「育児を休むことは悪いことではない」

住民に向けた講演会・啓発
家族にも近所の人にも温かく見守ってほしい。

●産後2週間健診の実施

～ 出産後の母親をしっかりサポート ～

○保育サポート

- ・授乳、沐浴の方法
- ・育児相談

○子どものケア

- ・発育、発達チェック
- ・スキンケア

○母親のからだと心のケア

- ・リラックス法
- ・カウンセリング
- ・ボディケアなど



男女共同参画の実現

目的	子育ちを母親だけが担うのではなく、父親、祖父母にも協力してもらうために、子育ちの知識・技能、心構えを身に着ける講習等を行う。また、親にとって子育ちが過度の負担にならないよう、ひとやすみできる環境をつくっていく。		
内容	<p>プレママ・プレパパのマタニティ教室開設 父母となる夫婦を対象に子育ちの不安感を解消し、生まれてくる子どもを迎える準備の手助けを行う。</p>	主管課等	小豆島中央病院企業団
		現状	小豆島中央病院で、妊娠25週前・後に分け、月1回実施している
		目標年度	計画期間中継続実施
		目標数等	開設時間、回数を見直し実施。 ・父親の参加割合 H26:10%→H31:30%
内 容	<p>父親、祖父母の育児啓発 子育ちには家族の理解が必要であるため、父親に親としての自覚を促し、また祖父母の協力も得て、母親とともに子どもを育てる土壌を作る。</p>	主管課等	小豆島中央病院企業団
		現状	小豆島中央病院で、生まれてくる子どもの父母、祖父母を対象に実施(予約制)している
		目標年度	計画期間中継続実施
		目標数等	小豆島中央病院においても継続して実施
内 容	<p>産後2週間健診の実施 退院してからの子育てを不安なく行うため、出産した母親の心身の回復を促すため相談、母子のケアを行う。</p>	主管課等	小豆島中央病院企業団
		現状	実施していない
		目標年度	平成29年度から実施
		目標数等	新病院で実施する
内 容	<p>子育ちひとやすみ 子育ちは分からぬことの連続であり、親のストレスが過度にならないよう適宜休みを取ることの必要性と、周囲の理解が高まるよう啓発する。また、託児ボランティアの登録者数を増やし、託児ボランティア事業を充実させる。</p>	主管課等	子育ち共育課・人権対策課
		現状	講演会等開催時に、託児サービスの開設を求められた場合、行っている
		目標年度	平成27年度から実施
		目標数等	啓発を行うとともに、イベント等への保育士派遣を行う。託児ボランティア登録者数(H32)20名

男女共同参画社会の実現

～いきいきプラン(男女共同参画基本計画)の実践～



意識づくり

～男性だから、女性だから・・・ではなく、
自分らしく活躍できるように～

- 男女平等、男女共同参画の視点に立つ教育、啓発活動の推進
 - ・さまざまな機会を捉えての情報発信



環境づくり

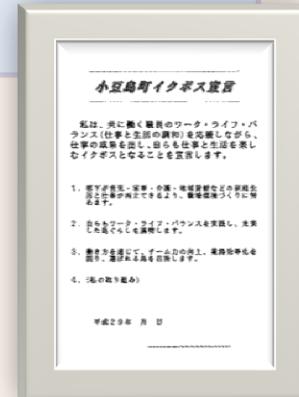
～いろいろな場所で活躍できるように～

- 男性の家事・育児・介護参加支援
 - ・講座、ワークショップなどの開催
- ワーク・ライフ・バランスの普及、啓発
 - ・イクボス宣言、研修会などの実施
- 女性が働くことに対する意識の醸成
 - ・講演会、研修会などの実施

まちづくり

～お互いの人権を大切にするために～

- DV防止に向けた啓発・相談体制の充実
 - ・相談窓口の周知
- 虐待防止等ネットワーク会議での連携
 - ・イベント会場など人が集まる場所での虐待防止等の啓発活動
- 誰もが人権尊重の精神をもつための啓発活動



男女があわいに尊重しあい、
活躍できる社会に

男女共同参画社会の実現

目的	男女共同参画社会は、女性だけが頑張って実現できるものではない。家庭、学校、地域、職場それぞれの場所で、男性と女性がお互いに尊重しあい、支え合いながら活躍できる社会をつくるための取り組みを行う。		
内容	さまざまな分野での意識づくり 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」などという、性別による固定的な役割分担意識にとらわれることなく、働き方や生き方を自分らしく主体的に選択できる社会にするための意識の醸成を図る。	主管課等	人権対策課
		現状	意識づくりの機会を設けている
		目標年度	計画期間内継続実施
		目標数等	男女共同参画講演会等に男性の参加者を増やす
内容	男性の家事・育児・介護参加の支援 「共働き共育て」家庭が増えており、今後女性が働き続けられるように、家事、育児、介護等が女性に偏らないようにすることが必要である。そのために、男性に家事、育児、介護等のスキルアップを図る機会を設けるなど、意識改革をすすめる。	主管課等	人権対策課・健康づくり福祉課・高齢者福祉課
		現状	子育て中の男性が参加しやすく、スキルアップできる機会がない。
		目標年度	計画期間内継続実施
		目標数等	参加できる機会を設ける。
内容	ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の推進 仕事と家庭生活(育児・家事・介護・地域貢献など)を両立するためには、職場での理解が必要である。 小豆島町でイクボス宣言を行い、ワーク・ライフ・バランスを実践できる職場づくりをする。	主管課等	人権対策課
		現状	計画期間内継続実施
		目標年度	平成29年度実施
		目標数等	小豆島町 課長職以上のイクボス宣言の実施
内容	DV防止に向けた啓発 配偶者からの暴力(DV)は子どもへの影響も大きいため、未然に防ぐための啓発活動が大切である。 そのために、若年層へのデートDV防止、DVを含む虐待防止の啓発を強化する。	主管課等	人権対策課、健康づくり福祉課、高齢者福祉課
		現状	虐待防止等ネットワーク会議で活動している
		目標年度	計画期間内継続実施
		目標数等	啓発活動の機会を増やす

【地場産業の強化】



異色のコラボレーション

【デザイナー、クリエイター等 異業種参加型】

- ・新商品開発
- ・新デザイン開発
- ・新パッケージ開発
など



地場産業への関心

【子どもたち参加型】

- ・子どもたちのための地場産業まつり
(醤の郷まつり・商工まつり)
- ・高校生による新メニュー募集
- ・子どもたちへの地場産業教室
など



地場産業の情報発信

【町・各種企業参加型】

- ・プレストリップの活用
- ・HPやSNSを使った発信、拡散
- ・島外企業とのツアー企画実施によるファン作り
- ・首都圏での地場産品展示会参加
など



醤油、つくだ煮、オリーブ、素麺等地場産業の活性化

※プレストリップ: 出版社等を招へいし、取材を通して、広く周知し、観光客等を獲得しようとするもの

SNS: ソーシャルネットワーキングサービスの略称で、ブログ、ツイッターやフェイスブックなどのことをいう

男女共同参画の実現【地場産業の強化】

目的	地場産業の活性化のため、産地間の同業種はもとより異業種とのコラボレーション、子どもたちの地場産業への関心や積極的な情報発信を実施することにより、地場産業の総合的な振興を図ることを目的とする。		
内容	異色のコラボレーション(異業種参加型) 同業種のみならず、デザイナー・クリエーター等異業種とのコラボレーションにより、新商品・新デザイン・新パッケージ等を開発する。	主管課	企画財政課・商工観光課
	現状	斬新な発想が不足している	
	目標年度	計画期間中継続実施	
	目標数等	小豆島ならではのデザイン等を開発する	
内容	地場産業への関心(子どもたち参加型) 子どもたちが学校教育の中で地場産業について学習することをきっかけとして、地場産業に対する関心と理解を深め、また参加することにより、将来の後継者育成につなげることを目的とする。 (地場産業まつり・新メニュー開発・教室等)	主管課	学校教育課・商工観光課
		現状	子どもを対象とした開催頻度が少ない
		目標年度	計画期間中継続実施
		目標数等	地場産業に接する機会を増やすことにより、関心等を深め将来の後継者育成につなげていく
内容	地場産業の情報発信(町・各種企業参加型) 既存のHP等にとどまらず、プレストリップの活用・SNSを使った発信・拡散、島外企業とのツアー企画実施によるファン作り、 スーパーマーケット・トレードショー(食) における地場産品の出展による認知度アップ等、情報流通を増やし地場産業のPRを行う。	主管課	企画財政課・商工観光課
		現状	情報流通が限定的である
		目標年度	計画期間内継続実施
		目標数等	情報エリアを拡大する

地域による応援



【出会いの輪創出】

小豆島を出会いの発信地に！！

人にふれる

- ・地元の方のおせつたい
- ・島のおいしいものを食す
- ・移住者との交流会

自然・文化・歴史・
産業にふれる

- ・海、山満喫ツアー（アウトドア）
- ・工場見学…醤油、素麺、佃煮など
- ・オリーブの収穫体験
- ・島の歴史探訪…お遍路、寒霞渓、二十四の瞳、石の文化

アートにふれる

- ・アーティスト、クリエイターによるワークショップ
- ・島のアートをめぐるツアー



共同
作業

- ・新規イベント企画
- ・広報活動（首都圏等へも発信）

婚活イベントの開催

出会い



お付き合い・結婚へ

職場と家の往復
で出会いがないな…

同じ趣味のひと
知り合いたいなあ…



・スポーツ…バレー、バドミントン、フットサルなど

・写真・絵画・生け花

・手芸、料理

・山歩き

・旅行

・釣り

参加する

普段の生活の中で出会いたい！

小豆島で幸せな家庭生活を！

地域による応援 【出会いの輪創出】

目的	家族や友人、地域の人々の応援により、小豆島で生涯のパートナーを見つけるための『出会いの輪』を創出する。 自然、文化、歴史、産業、人と人の絆、アートなどを体験できるイベントを企画することで、島内、島外問わずすべての参加者に『島の魅力』を伝える。 年齢や結婚後の暮らしなど多様なニーズに応じた婚活活動を推進する。		
	○小豆島の人や自然、文化、歴史、産業、アートなどにふれ、当事者の主体的な関わりや、共同作業により互いの理解を深め、島の魅力を共感できるイベントの企画・運営を行う。 ・島内者…島の魅力を再発見、人と人の絆を感じる ・島外者…島の魅力を体験してもらうことで、『島暮らし』を具体的にイメージし、関係をつなぐ 例)オリーブの収穫体験、きき醤油体験、小豆島の歴史探訪（お遍路、寒霞渓、二十四の瞳、石の文化など）、特産品や地元の野菜などをつかった地元の人による料理教室、小豆島のアートをめぐるツアー	主管課	子育ち共育課
内容	○新規イベント企画や広報活動 独身者、移住者などさまざまな人の意見を聞き、多様な結婚観のニーズに応じたイベントや、広報を考える。広く首都圏等へも発信する。	現状	小豆島町、土庄町、両町商工会からなる「小豆島えんむすび実行委員会」が企画・運営している。H27.12に『青春の婚活パーティー』を実施。カップル6組成立。
		目標年度	計画期間中継続実施
	○地域のサークル活動を出会い系として紹介 サークル活動を出会い系として広報誌や町のホームページなどでPRしていく。 既婚・独身問わず気軽に参加でき、新たな人ととのつながりができる。共通の趣味を楽しむことができる。	目標数等	イベント内容を充実させたイベントを開催していく。 ・婚姻数:1組/年
		主管課	企画財政課など
		現状	実施していない
		目標年度	平成27年度から実施
		目標数等	広報誌や町ホームページ等に掲載する

地域による応援

世代を超えた交流



地域の人々に支えられ、のびのびと育つ

グランドゴルフを
教えてもらったよ♪



子育ちに対する応援



とんど



すくすくひろば・ふれあいひろば
(小豆島こどもセンター)



伝統芸能の伝承

Blue sheets Laboratory

わくわくランド
(せいけんじこども園)

むとす館

Umaki camp

遊児老館

ただいま文庫

空き家等を活用
した交流拠点づくり
(子育ちサロン)



地区行事への参加



～伝え、受け継ぎ、守っていく～

老人クラブ等による見守り・声かけ

地域による応援

目的	“子育ち”に、親だけでなく、その地域の人々が関わることで、地域のつながりを強めていく。 子育ち親子の孤立感、孤独感を解消する。		
内容	<p>世代を超えた交流</p> <ul style="list-style-type: none">・町内教育施設において、学校支援ボランティアを積極的に受け入れ、交流する・地域の行事に積極的に参加する・その地域に伝わる伝統芸能(安田おどり、獅子舞など)を学ぶ・町内介護施設への訪問、交流・先進的でユニークな子育ちを行う個人や団体に対し、助成をおこなう(かがわ健やか子ども基金事業を活用)。	主管課 目標数等	子育ち共育課 世代を超えた交流等を活発に行うことにより、子育ち親子の孤立、孤独感を解消するとともに、地域のつながりを強める
		現状	ボランティアによる読み聞かせや伝統芸能の伝承など、各幼稚園・保育所(園)等において実施している
		目標年度	計画期間内継続実施

ei (旧JA香川県坂手出張所) を利用した地域活動・子育ち支援

坂手港すぐそばに位置するeiは、関西からの玄関港としての役割を担い、地域住民、島内外のクリエイターと協働した企画やイベント、定期的な子ども向けのイベントなどがおこなわれています。

●継続しておこなわれている取り組み

観光

観光案内
(小豆島の魅力を発信)

関西の玄関港として、地元の任意団体「んごんごクラブ」によるボランティアで観光案内がおこなわれています。地元の大人たちによる小豆島の魅力を発信しています。



世代間・地域間交流

島内外企画のイベント
(島内外の交流)

島元住民やクリエイターと協働したイベント・ワークショップの実施場所として利用されています。島内外の人たちが交流できる空間になることを目的としています。



子育ち支援

MIKI STUDIO
(想像・創造力を育む)

小豆島町地域おこし協力隊による絵画教室。島内各地区から老若男女の参加者が集まり、絵画だけにとどまらず、写真撮影や他クリエイターとの協働した企画も実施しています。



ただいま文庫
(子育ち支援)

島内外のクリエイターと地元住民から寄贈された絵本がそろう小さな絵本図書室。島の未来を担う子どもたちや保護者たちが集まる場所を目指しながら、子どもの成長を応援する企画です。



定期的なイベント
(世代間・地域間交流)

ei利用者・地元住民と協力し、季節ごとの会を企画しています。工作やゲームをしたり、子どもたちが遊べる企画を中心に、保護者たちの地域を超えた交流を目的としています。



●そのほかにもさまざまな利用をしています

クリエイターによる滞在制作



展示会場として利用



地元住民との協働制作



来館者との交流



地域の憩いの場



フェリーの待合所



●これから取り組み

しまのちえぶくろ
(郷土学習・伝統継承)

地元住民の知識や知恵を学べる企画を考案しています。



地元住民とクリエイターや観光客などの島外の人などさまざまな人が訪れる立地を活かして、住んでいる地域を越えた関係づくりや、出会いをつくる場所になることを目的としています。

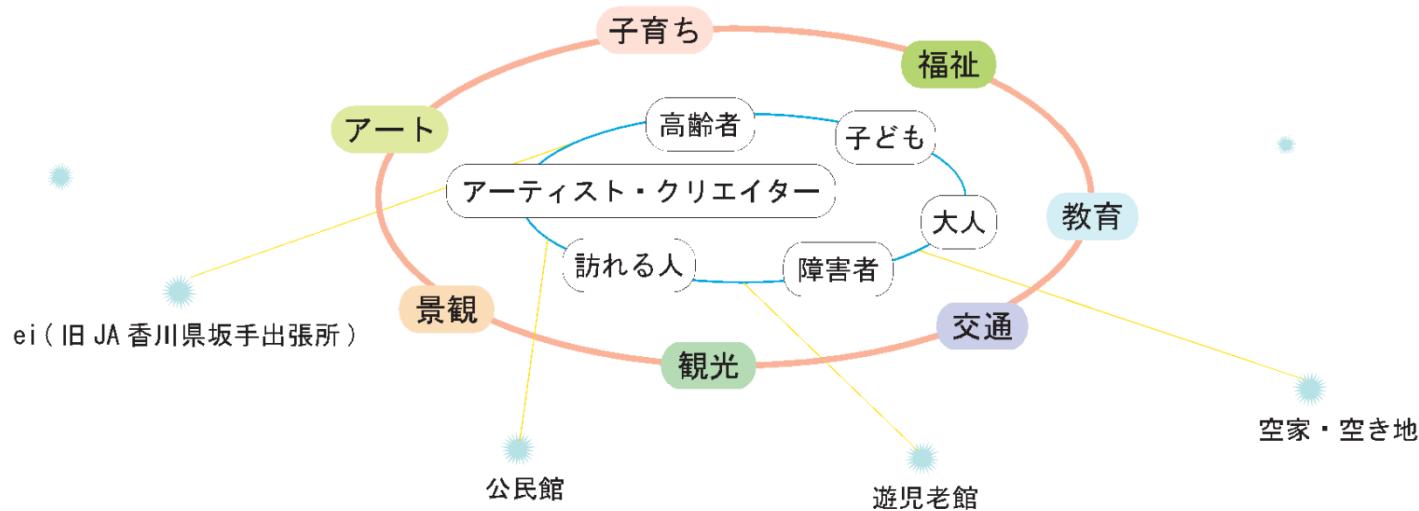


地域による応援 ei(えい・旧JA香川県坂手出張所・遊児老館)を利用した地域活動・子育ち支援

目的	京阪神との玄関港坂手にあるei(えい)が、地元住民と島外のクリエイター、島に訪れる人が集い、まちの未来を豊かにしていく場所になることを目指す。また、ワークショップや企画を通して、子どもから大人まで創造力を育む場所になることを目指す。		
内容	<p>島内外企画のイベント、定期的なイベント (世代間・地域間交流) 地元住民・島外のクリエイターなどと協働したイベント、季節ごとの会など創造力を育むワークショップやイベントを企画し、世代間・地域間を越えた交流を目指す。</p>	主管課	企画財政課
		現状	島内の人や島外のクリエイターが持ち込んだ企画を実施。 <過去のイベント実施例>瀬戸内国際芸術祭で縁のあったクリエイターによるイベントや小豆島町地域おこし協力隊によるワークショップを実施している
		目標年度	計画期間内継続実施
		目標数等	単年度に最低6回イベントを開催する
内容	<p>MIKI STUDIO(想像・創造力を育む) 小豆島町地域おこし協力隊・岡村美紀による絵画教室。 地域を越えた子どもたちの交流と、子どもの創造力を育む。</p>	主管課	企画財政課
		現状	木・金・土・日曜に絵画教室を実施。島内の4歳から80歳まで、50人強の方が参加している
		目標年度	計画期間内継続実施 →H28年度終了
		目標数等	定期的(月1回)に開催する
内容	<p>ただいま文庫(子育ち支援) 子どもたちや保護者が集い、憩える場所になることを目指す。また、小豆島で育つ子どもたちの成長を、保護者はもちろん島内外・地元の大人と一緒に見守りながら、共に島の未来を豊かにしていくきっかけをつくる。</p>	主管課	企画財政課・子育ち共育課
		現状	eiに拠点を構え、9:00-17:00のあいだ開館(月・木曜休館)。定期的に食育のワークショップを実施している。
		目標年度	計画期間内継続実施
		目標数等	馬木など拠点施設で週1回出張ワークショップを行う
内容	<p>その他 既存施設との協働や、施設目的に合う企画を状況に応じて実施する。</p>		

【坂手多世代交流・多機能型支援モデル事業】

坂手の「子育ち」×「福祉」×「教育」×「アート」のモデルプラン



【目指すこと】

- 小豆島で子育ちがしたくなる楽しい町づくり
- 高齢者、子ども、障害者、その他多様なニーズを持つ人が安心して暮らせる環境づくり
- 町の人とアーティストやクリエイターの交流により新しい島の魅力を発見し、町の人がより一層ふるさとに誇りを持つこと
- 町の機関や地域の拠点などとの連携により、地域住民の支え合いを強くすること
- 京阪神の玄関港である坂手から、小豆島の魅力を島内外に発信

坂手多世代交流・多機能型支援モデル事業 坂手の「子育ち」×「福祉」×「教育」×「アート」のモデルプラン

目的	<p>小豆島で子育ちがしたくなる楽しい町づくりを目指し、高齢者、子ども、障害者、その他多様なニーズを持つ人が安心して暮らせるよう、坂手の遊児老館(旧坂手幼稚園)に多世代交流・多機能型支援施設を整備する。ここは、町の人が新たな島の魅力を発見し、一層ふるさとに誇りを持つことができるよう島内外のアーティストやクリエイターとの交流拠点としても機能する。町の機関や地域の拠点との連携により、地域住民の支え合いを強くし、持続可能なモデルを目指す。京阪神との玄関港に位置する坂手から小豆島の魅力を島内外に発信する。</p>		
内容	<p>遊児老館を多世代交流・多機能型施設として整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「子育ち」×「福祉」×「教育」×「アート」の取組み <ul style="list-style-type: none"> ・【福祉】 住み慣れた地域での生活を継続することができるよう「通い」を中心に「泊まり」「訪問」のサービスを提供する小規模多機能施設の設置。健康体操や食を通して健康づくりを考えるイベントの実施など ・【育児・教育】 子どもが育つ・学ぶための環境づくり(子どもの一時預かり、出産前・出産後のサポート、放課後学習支援など) ・【障害者福祉】 障害者やその家族のための環境づくり(島内外のアーティスト・クリエイターによる障害者のためのものづくりワークショップ、障害を持つ人を理解するためのセミナー実施など) ・【アート】 島内外のアーティスト・クリエイターとの交流により新たな島の魅力を発見できるイベントやワークショップの実施 ●地域の支え合いを強める取組み <ul style="list-style-type: none"> ・関わる人々がより良いかたちを目指し、一丸となって支え合う拠点となるよう多様なニーズを汲み上げ、互いを理解し合うための意見交換の場をつくる ・小豆島の歴史や文化、暮らしについて学べるよう、地域の人から昔話や風習などを聞いたり、見たり、一緒につくったり出来る会を開く ・地域の取組み(行事、子どもや高齢者の見守り活動、花植え、清掃など)への参加や、空き地を有効活用した共有の畑で野菜や果物などを育てる ・町内の教育機関、民間の保育・福祉施設、ei[えい](旧JA香川県坂手出張所)、Umaki camp、旧JA香川県草壁支店などの地域の拠点、島外の大学(香川大学や京都造形芸術大学など)との連携 ・この拠点での取組みを小豆島の魅力として島内外に発信する 	主管課 現状 目標年度 目標数等	<p>子育ち共育課、高齢者福祉課、健康づくり福祉課、企画財政課ほか</p> <p>平成26年12月に坂手住民向け第1回小規模多機能施設の説明会と、「はまひるがお福田」への視察を実施</p> <p>平成27年度から実施</p> <p>・利用者数 H26:0人→H31:600人(旧JA香川県草壁支店と合わせて)</p>

旧JA香川県草壁支店を活用した“共に学び共に育つ”地域づくりプロジェクト

赤ちゃんからお年寄りまで自由に集える「世代間交流の場」



- ・民具の保管
- ・資料の展示、活用を視野に入れた利用



文化

自然

絆

伝統

旧JA香川県草壁支店を活用した“共に学び共に育つ”地域づくりプロジェクト

目的	草壁地区に新たな世代間交流の場をつくり、お年寄りから赤ちゃんまでが安心して、学び、集う、楽しい場所づくりを目指し、その交流の中から地域の人々の支え合い、人と人との絆を強くする。		
内容	地域の人々による活用 ・地域や世代を問わずに利用できる施設として貸し出し(地域の人々のおしゃべり場や昔遊び、読み聞かせなど地域の人々の知恵を生かした交流を行うなどの場所として提供)。	主管課 現状	子育ち共育課・企画財政課など 地域おこし協力隊員による絵画教室、英語教室が終了(平成28年6月)。 上記に通っていた有志と別の利用者、あわせて2団体(10~15名ほど)が、毎週木曜日に利用している(平成29年4月~)。 民具の保管、管理場所として倉庫を利用している(平成29年2月~)。
	行政スタッフによる活用 ・民具の保管を中心とした、資料の展示、活用を視野に入れた施設の利用。	目標年度 目標数等	平成27年度から実施 利用者数 H26:0人→H31:600人(遊児老館と合わせて)

小豆っこ誕生プロジェクト事業

小豆島町が、子どもの誕生に感謝し、未来を応援したいという想いから立ち上がったプロジェクトです。



平成27年度以降の出生児の出生届の際に役場窓口で、贈りもの（木箱とカード）を贈呈します。木箱の中に入れるカードは小豆島に縁のあるアーティスト・クリエイター・団体と制作していきます。

贈り物の中身



贈り物の内容は下記の内容になり、『カード』は定期的に更新し、兄弟・姉妹ごとに異なったカードを受け取れるよう工夫しています。



『木箱』

母子手帳や、へその緒、お子さまの成長過程で生まれる思い出を詰めれるようつくりています。

・伝えたい想い



1. 小豆島に生まれてきてくれてありがとうございます
町から、生まれてきた子どもとご家族に対する感謝の気持ちをお届けします
2. 小豆島町は生まれてきた子どもたちの未来を応援しています！
生まれてきた子どもにとって生涯の記念となる贈りものになりますように
3. 小豆島が子どもたちにとって誇るべき、魅力いっぱいのふるさとであり続けますように…
贈りものの制作に島内外のアーティストやクリエイターが関わることにより、島の魅力を発信します！
4. 子どもたちの笑顔が地域の人々の生きる活力となりますように…
5. これから子育ちをする方、島外の方にも小豆島で子育ちがしたいと思つてもらえますように…

これから子育ちをする方、地域のお年寄り、さらには島外の人たちにも子育ちの輪が広がっていきますように

『カード』

お子さまの成長と一緒に使えるカードを、協同でつくります。



※カードはイメージです。

『説明書・袋』

プロジェクトの説明や、贈り物の使い方を書いた説明書が同封されます。



小豆っこ誕生プロジェクト事業

目的	子どもの誕生を小豆島町全体でお祝いし、子どもの未来を応援する		
内 容	子どもの誕生に感謝し、子どもの未来を応援したいという想いから立ち上がったプロジェクトである。 「小豆島で子育ちをしたい」という想いを広めるため、また子どもたちが故郷に誇りを持ち続けるために、小豆島の魅力を感じられるお祝い作りに取り組んでいく。 第1弾として、地域おこし協力隊員と島の子どもたちによるコラボレーションで作られたグリーティングカードを贈呈する。	主管課 現状 目標年度 目標数等	子育ち共育課 小豆島中央病院で、出生した子どもと家族に書き込み式のアルバムをプレゼントしている。 平成27年度から実施 小豆島町に住所を有する新生児に贈呈する

地域による応援

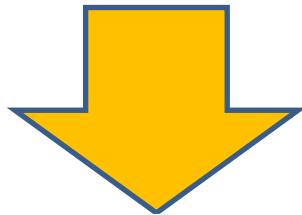
世代を超えた交流

ブックスタート事業



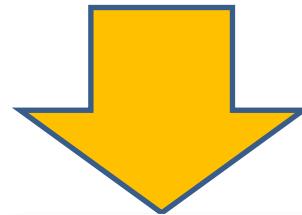
ブックスタートとは、赤ちゃんと保護者に絵本を手渡し、絵本を開く楽しい体験と一緒に、心触れ合うひとときを持つきっかけを作る活動。

ブックスタートからひろがる可能性



・絵本を介して、赤ちゃんと保護者が心触れ合うひとときをもつ

赤ちゃんのかわいい反応を見ながら、絵本を開く時間の楽しさを体験してもらうことで、家庭でも赤ちゃんに優しいことはア語りかけ心通わせる



・保護者どうしが出会い、つながりをもてるきっかけづくり

赤ちゃんのいる保護者どうしが知り合い、絵本を通して気軽に話し合えるきっかけになる



地域による応援【世代を超えた交流】

目的	町内で生まれたすべての赤ちゃんに絵本を手渡し、絵本を介して赤ちゃんと保護者が心触れ合うひとときをもつ機会を提供する。	主管課 現状 目標年度 目標数等	社会教育課 4か月児健診時に絵本を手渡し、ひとりひとりの赤ちゃんに読み聞かせを行う。 平成28年度から実施 小豆島町に住所を有す新生児に、4か月児健診で手渡す。
内容	<p>ブックスタート事業</p> <p>ブックスタートとは、赤ちゃんと保護者に絵本を手渡し、絵本を開く楽しい体験と一緒に、心触れ合うひとときを持つきっかけを作る活動。</p> <p>絵本を介して、赤ちゃんと保護者が心触れ合うひとときを持つことで、親子の愛情形成の手段の一つとする。</p> <p>小豆島町では4か月児健診に図書館職員が出向き、保護者へ事業の説明をするとともに、ひとりひとりの赤ちゃんに読み聞かせを行う。</p>		

地域による応援

【豊富な経験・知識の活用】



病児・病後児保育

【小豆島中央病院】

- ・病児・病後児保育
サービスの充実



【育児経験者による】

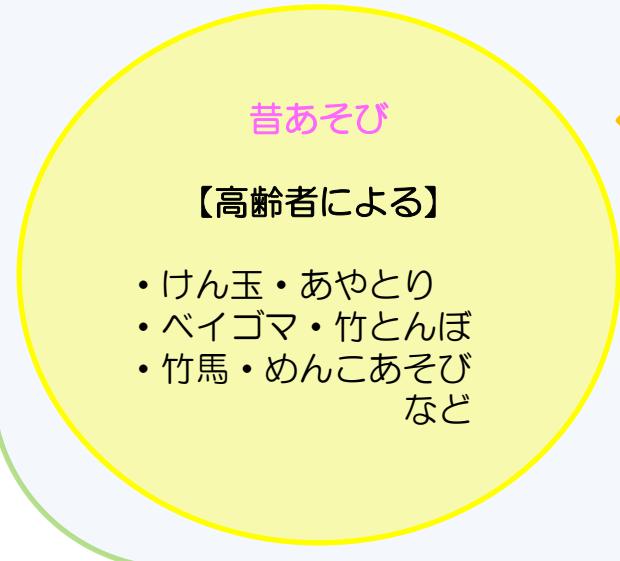
- ・病児宅から病院までの通院サービス



昔あそび

【高齢者による】

- ・けん玉・あやとり
- ・ベイゴマ・竹とんぼ
- ・竹馬・めんこあそび
など



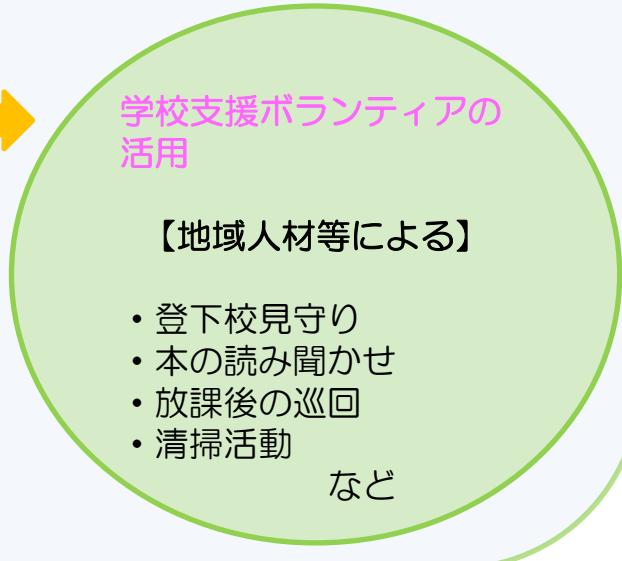
地域の、経験や知識の 豊富な人材等による応援



学校支援ボランティアの 活用

【地域人材等による】

- ・登下校見守り
- ・本の読み聞かせ
- ・放課後の巡回
- ・清掃活動
など



地域による応援【豊富な経験・知識の活用】

目的	地域の、経験や知識の豊富な人材等による応援により、心豊かでたくましい子どもを地域全体で育み、また、育児経験者等による通院サービスによって病児・病後児保育の充実を図っていく。		
内容	病児・病後児保育 体調不良児の保護者が保育困難な場合、保護者に代わって通院サービスを行う等病児・病後児保育の充実を図る。	主管課	子育ち共育課
	現状	保護者が仕事を休み、子どもの通院を行っている	
	目標年度	平成27年度から実施	
		目標数等	保護者に代わって、育児経験者等が子どもを通院できる体制づくりをする。 ・H26:0人→H31:延べ90人
内 容	昔あそび 豊かな生活文化や手作り文化を持っている地域の高齢者が、子どもたちに昔あそびを教えることによって、子どもたちの精神力、能力的発達の一助になるとともに、地域社会とのコミュニケーションを図っていく。	主管課	学校教育課・社会教育課
	現状	地域とのコミュニケーションが希薄	
	目標年度	計画期間中継続実施	
	目標数等	昔あそびを通じて、地域とのコミュニケーションを図っていく	
内 容	学校支援ボランティアの活用 老人クラブ等各種学校支援ボランティアによる、登下校見守り、本の読み聞かせ、放課後巡回等を行う。	主管課	学校教育課・社会教育課
	現状	全地域統一的に行われていない	
	目標年度	計画期間中継続実施	
	目標数等	町内全域で行えるようにする	

子育ちの環境づくり

誰もが集まりたくなる場所をつくる

認定こども園の開設



- ☆集団生活の中で、社会性を育む。
- ☆保護者の就労形態が変わっても同じ園で遊び、学べる。
- ☆いつでも相談できる。
- ☆子育ちに関する情報がすぐにわかる。

遊べる屋内広場(子育ちサロン)の設置



- ☆雨の日でも遊べる場所がある。
- ☆悩み事が話せる、親同士友達になれる場所がある。
- ☆保健師、保育士と相談できる場所がある。



子育ち応援モデル事業の充実

先進的でユニークな取り組みを行う個人や団体に対して補助金を交付しています。



子育ちの環境づくり 【誰もが集まりたくなる場所をつくる】

目的	近くに同年代の子どもを持つ保護者が少ないために、子育ちの不安を共有することができず、保護者がひとりで不安を抱えている例が少なくない。誰もが気軽に集まりたくなる場所を作り、顔を合わせ、情報交換することで地域で子どもを育てる環境をつくる。	主管課	子育ち共育課
内容	認定こども園の開設 保護者の就労状況が変わっても退園することなく同じ園で遊び、学び、社会性を育むことができる。 家庭で保育している保護者に対しても、相談窓口を設置することで、子育ちの不安を解消できる。	現状	認定こども園未設置
	目標年度	平成35年度開設	
	目標数等	内海地区に1園設置、池田地区の小豆島こどもセンターを認定こども園化する。 ・待機児童ゼロを維持	
	遊べる屋内広場(子育ちサロン)の設置 天候を気にせず集まれる場所を開設し、親子の憩いの場を提供する。保健師、保育士が直接出向き、親との相談の場を持つ。	主管課	子育ち共育課
内容	子育ち応援モデル事業 ・ ユニークで先進的な子育ちを行う個人や団体の活動費や、自治会が設置する遊具の設置費用に対し補助する (いずれも上限50万円／年、最長3年。かがわ健やか子ども基金事業を活用)。 ・子育ちを応援する個人や団体の活動に対し補助することにより、子どもやその保護者が集い、保護者同士が交流できる場や機会を増やす。 近くに楽しく遊べる遊具ができることで、世帯間交流が行われ、子どもの声が聞こえるまちづくりを行う(かがわ健やか子ども基金事業を活用)。	現状	地域子育て支援拠点事業を2施設で実施
	目標年度	計画期間内に開設	
	目標数等	4か所(各小学校区に1か所)のうち残り2か所整備する	
	主管課	子育ち共育課	
	現状	ユニークで先進的な子育ち応援活動を行う個人、団体活動費に助成 自治会の遊具設置費用に対し助成	
	目標年度	計画期間内継続実施	
	目標数等	身近な地域に集まれる場所ができるよう継続する	
	主管課	オリーブ課	
内容	オリーブ公園の遊具老朽化	現状	オリーブ公園の遊具老朽化
		目標年度	平成27年度改修実施
		目標数等	平成27年度総合遊具竣工

子育ちの環境づくり～小豆島町あいいく会活動の推進～

月1回のあいいく広場の開催



- ・ベビーマッサージ
- ・ワークショップ
- ・保健師の相談

など

母子保健事業への参加



- ・2か月児相談
- ・赤ちゃん訪問

多世代交流できるイベントの開催



- ・親子クッキング
- ・クリスマス会

など



人と人とのつながりを広め、親子が孤立せず安心して子育てできる地域づくりを目指す

子育ちの環境づくり あいいく会活動の推進

目的	地域の人が直接顔を合わせ、声を掛け合える活動を行っていくことで、親子が孤立せず、安心して子育ちができる地域づくりを目指す。		
内容	町内在住の方ならだれでも参加できるあいいく広場の開催 子育て中の保護者たちが親子で交流ができる場として月1回のあいいく広場を開催する。あいいく広場ではベビーマッサージやその他のワークショップを実施し、子どもも保護者も楽しめる会にする。また、保健師も参加し、育児に関する相談もできる場とする。	主管課等	健康づくり福祉課
		現状	H28年度は7回/年の実施
		目標年度	平成29年度実施
		目標数等	12回/年実施予定。 内容については会員の希望を聞き取り、隨時検討していく。
	多世代交流ができるイベントの実施 クリスマス会を始め、母子だけでなく父や祖父母も参加できるイベントを開催することで多世代の交流を深める。また、他団体への協力も依頼し、地域のつながりを広げる。	主管課等	健康づくり福祉課
		現状	H28年度は12月にクリスマス会を実施し、読み聞かせボランティア、竹細工ボランティアが参加。 食生活改善員との親子クッキングを苗羽、安田、星城で1回ずつ実施。
		目標年度	平成29年度実施
		目標数等	12月にクリスマス会を実施。 県の事業である子育てカレッジとして、講演会を実施予定。
	母子保健事業への参加 2か月児相談への参加で、親子への声かけを行い、気軽にあいいく会活動へ参加してもらえるようにする。また、地域の身近な相談相手としてもあいいく班員がいることを知つもらうこととで、親子の孤立を防ぐ。	主管課等	健康づくり福祉課
		現状	H28年度は、2か月児相談へ6回/年参加 赤ちゃん訪問11件実施
		目標年度	平成29年度実施
		目標数等	2か月児相談へ6回/年以上の参加。

子育ちの環境づくり

若い世代の負担軽減

奨学金制度

- 多くの生徒が借りりうるよう所得要件を緩和
- 月額5万円貸与
(保健医療福祉関係職修学資金)
貸付対象職種を17職種から**20職種へ**
特別修学資金(月額3万円)加算貸与新設
- 全額免除制度
(保健医療福祉関係職)
町立施設等に引き続き5年間従事
(一般)
町内に住所を有し、郡内の事業所に8年間就業から**5年間就業へ短縮**



通学定期助成制度

- 小豆島中央高校へバス通学する生徒を対象に公共交通利用促進・子育ち支援・交通安全対策等から**定期券の一部を助成**
(小豆両町で実施)
→基本運賃300円の場合…1か月定期券7,200円の場合、**5,000円を超える額を助成**(片道定期も対象)



※高校生の通学利用への対応としてバス事業者が朝便4台増発

安心の子育ち

幼稚園・保育所保育料

- 第3子以降保育料無料
- 3歳以上児保育所保育料上限額月2万円

医療費

- 中学生までの入院・外来医療費無料
- ひとり親家庭の医療費無料

子育ちの環境づくり 若い世代の負担軽減

目的	若い世代の子育ちに係る負担を軽減し、子どもたちが夢を持って健やかに育つよう応援する。		
内容	<p>【奨学金制度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○できるだけ多くの学生が利用できるよう所得要件を緩和 ○月額5万円貸与 ○全額免除制度 (保健医療福祉) 対象業種: 保健師、助産師、看護師、理学療法士、作業療法士、 診療放射線技師、医師、薬剤師、臨床検査技師、 臨床工学技士、視能訓練士、言語聴覚士、管理栄養士、 社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士、保育士、 歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士 (以上20業種) 免除要件: 町立施設等で業務に従事、5年間勤務したとき 特別貸付: 一定要件を満たす者に特別修学資金(月額3万円)を 加算貸与新設 <p>(一般) 免除要件: 町内に住所を有し、郡内事業所に5年間就業したとき</p> <p>【幼稚園・保育所保育料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第3子以降保育料免除 ○3歳以上児保育所保育料上限20,000円(月額) ○3歳未満児保育所保育料上限40,000円(月額) <p>【医療費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学生までの入院・外来医療費無料 ○ひとり親家庭の医療費無料 <p>【通学定期助成制度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小豆島中央高校へバス通学する生徒を対象に公共交通利用促進・子育ち支援・交通安全対策等から定期券の一部を助成(小豆両町で実施) →基本運賃300円の場合…1か月定期券7,200円の場合5,000円を超える額を助成(片道定期も対象) ※高校生の通学利用への対応としてバス事業者が朝便4台増発 	<p>主管課</p> <p>現状</p> <p>目標年度</p> <p>目標数等</p>	<p>学校教育課、健康づくり福祉課</p> <p>奨学金制度の充実や、幼稚園・保育所保育料の減免を行い若い世代の負担軽減を行っている</p> <p>計画期間内継続実施</p> <p>引き続き負担軽減を行い、若い世代を応援する</p>
		主管課	企画財政課
		現状	1ヶ月定期購入 片道8名 往復51名 3ヶ月定期月購入 片道10名 往復95名 ※平成29年4月11日現在
		目標年度	計画期間内継続実施
		目標数等	制度主旨に沿い継続して子育ちに係る負担を軽減する。

子育ちの環境づくり

小豆島こどもセンターの充実

○地域子育て支援拠点事業の開所日の増加

週3日から週5日へ開所日を増やし、園庭開放や相談業務を行うことにより、在宅保育する家庭への支援を充実させる

○ 延長保育の実施

通常保育時間を延長して保育することにより、保護者の様々な就労に対応する

○ フレキシブル勤務

地域に潜在する保育士等有資格者をフレキシブル勤務で雇用することにより、有資格者の活用とともに、保育の充実を図る

○ 特別支援補助講師の配置

支援を必要とする児童を集団の中で適切に支援することで、児童の健やかな成長を促す

○ 一時預かり事業

一時的に保育が困難になった児童を預かり、保護者を支援する



子育ちの環境づくり 小豆島こどもセンターの充実

目的	小豆島こどもセンターを充実させることにより、通園中の児童の健全な成長を応援するとともに、在宅保育する家庭への相談業務を強化し、保護者の孤立化・孤独感を解消する。		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○地域子育て支援拠点事業の充実 週3日から週5日へ開所日を増やし、園庭開放や相談業務を行うことにより、在宅保育する家庭への支援を充実させる ○ 延長保育の実施 通常保育時間を延長して保育することにより、保護者の様々な就労に対応する ○ フレキシブル勤務 地域に潜在する保育士等有資格者をフレキシブル勤務で雇用することにより、有資格者の活用とともに、保育の充実を図る ○ 特別支援補助講師の配置 支援を必要とする児童を集団の中で適切に支援することで、児童の健やかな成長を促す ○ 一時預かり事業 一時的に保育が困難になった児童を預かり、保護者を支援する 	<p>主管課</p> <p>現状</p> <p>目標年度</p> <p>目標数等</p>	<p>子育ち共育課</p> <p>地域子育て支援拠点事業を週3日実施 フレキシブル勤務を実施 特別支援補助講師を配置 一時預かり事業を実施</p> <p>地域子育て支援拠点事業の充実 新規 平成27年度から実施 延長保育 平成27年度から実施</p> <p>地域子育て支援拠点事業の開所日数を週5日に増やすことにより、在宅保育する家庭を応援する 延長保育やフレキシブル勤務等を実施することにより、通園中の児童の健全な成長を応援する 地域子育て支援拠点事業 ・H25: 延べ5,285人→H31: 延べ5,551人 延長保育 ・H26:0人→H31:14人</p>

子育ちの環境づくり【ICT(インフォーメーション・コミュニケーション・テクノロジー)の活用】

情報活用能力の育成

中学校 平成26年度～タブレットPCの導入

パソコン教室に加えてタブレットPC40台を導入

- 【効果】
●学習意欲の向上
●授業の効率化
●情報活用能力の育成

地域学習での活用



小学校 平成27年度～タブレットPCの導入

平成27年度
各学校にタブレットPCを導入：122台
ノートパソコン：4台
無線LAN等の環境整備



地域学習等の校外活動で活用



高校 平成26年度～オンライン予備校

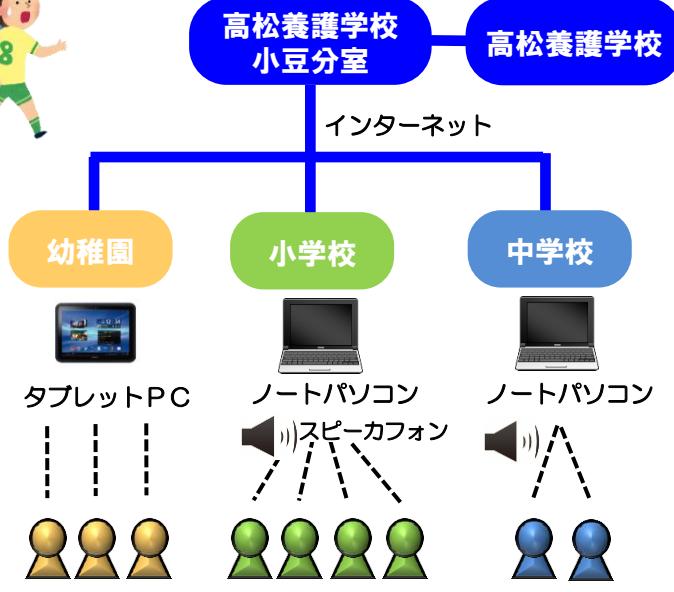


代ゼミの
サテラインを活用

難関国立大学や
希望する学校へ進学

特別支援学校との連携

瞳（アイ）ランドプロジェクト
平成26年度試験導入



学級担任・特別支援担当教員・養護教諭等

平成27年度の取り組み

1. 研修事業

小豆分室が資料等を準備し、週1～2回の研修を各15分程度実施する。

2. 相談業務

小豆分室と各学校が、ICTを活用して、必要に応じて相談できるような体制を構築する。

子育ちの環境づくり【ICTの活用】

目的	普通教室で使えるタブレットPCを整備して利活用することで「わかる授業」を展開し、生徒の情報活用能力や思考力・判断力・表現力を育成する		
内容	<p>情報活用能力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学校：タブレットPCを導入し、学習意欲の向上、情報活用能力の育成を目指す 高校：オンライン予備校を受講する生徒に対し受講料を助成し、希望大学等への進学を支援する 	主管課	学校教育課
		現状	タブレットをPC40台整備 オンライン予備校受講料助成実施
		目標年度	計画期間内継続実施
内 容	<p>地域学習での活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校：タブレットPCを導入し、オリーブ収穫や農業体験等地域学習時に活用し、ふるさとを知るとともに、ふるさとを愛する心を育む 	目標数等	中学校では生徒の学習意欲を向上させるとともに、情報活用能力を育成する 高校では生徒の希望する大学進学を支援するため、助成を継続する
		主管課	学校教育課
		現状	タブレットPC 0台
		目標年度	平成27年度から実施
内 容	<p>高松養護学校小豆分室との連携【瞳(アイ)ランドプロジェクト】 特別支援を必要とする児童生徒が増える中、一人一人に適した教育を提供するため、インターネットを活用し、高松養護学校小豆分室と各学校間で、研修及び相談事業を実施する</p>	目標数等	タブレットPCを122台整備し、地域学習等に活用する
		主管課	学校教育課、子育ち共育課
		現状	高松養護学校小豆分室教諭との連携が十分取れていない
		目標年度	計画期間内継続実施
内 容		目標数等	高松養護学校小豆分室教諭との連携を十分に行い、児童生徒一人一人に適切な教育を提供する

子育ちの環境づくり[ふるさと教育の推進]

保育所・幼稚園

- 健やかな子育ちのための基礎づくり
- 就学に備えた生活習慣の定着

ふるさと 教育

学校支援ボランティア

読み聞かせ



発達段階に応じたふるさと教育の推進

●子育ち応援講座

- 放課後児童クラブの充実
- しめ縄づくり

●児童虐待等の対応



農業体験

地域学習



オリーブ収穫

小学校

- 地域を愛する心の育成
- 学びの基礎づくり

中学校

- 切磋琢磨し、勉強やスポーツなど、一人ひとりの能力の向上

高校

- 将来の夢に向けてチャレンジ
- 希望大学等への進学

●地域との連携、地域の協力

学校支援ボランティア

読み聞かせ



ふるさとを愛する心を育む

奨学金制度

- 一般
- 保健医療福祉

- 月額: 5万円
- 免除制度
 - ①町内に住所
 - ②郡内企業に就職
 - ③5年間が経過
→ 全額免除

奨学金の活用

目標を持って島外に

難関大学等に進学
スポーツ・芸術等で活躍

大学等

社会人

社会人として活躍

高校卒業後

就職した後に

Uターンで

郡内で就職

魅力ある職場・魅力あるふるさと

社会人

小豆島を支える人材に

大学卒業後に
奨学金免除制度

子育ちの環境づくり【ふるさと教育の推進】

目的	子どもたちが、保育所・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通して、夢に向けてチャレンジするとともにふるさとを愛する心を育み、大学等卒業後または社会人として活躍したのち小豆島に帰り、小豆島を支える人材となるようふるさと教育を推進する		
内容	<p>学校支援ボランティアを活用した読み聞かせ、伝統文化の承継や部活動の指導、地域学習での農業体験やオリーブ収穫、放課後児童クラブ等を通して地域の人々と交流し、知識や技術を高め、ふるさとを愛する心を育む。</p> <p>大学等への進学時には、奨学金を貸与し、卒業後小豆島町に帰り郡内に就職し、一定期間経過した場合は返還を免除するなど夢へのチャレンジヒターンを推進する制度を実施し、将来の小豆島を支える人材を育成する。</p> <p>児童虐待等の予防及び早期発見・早期対応・被虐待者の相談等の相談に努めると共にふるさとを愛する心を育む。</p>	主管課 現状 目標年度 目標数等	学校教育課、健康づくり福祉課、子育ち共育課 奨学金制度新規貸与者数 ・一般(高校生を除く) H24 44名、H25 60名、H26 58名 ・保健医療福祉 H24 18名、H25 8名、H26 8名 計画期間内継続実施 ・奨学金貸付者のうち、島内就職者の目標(検討中) ・社会動態のうち、転入者の増加目標(検討中)

子育ちの環境づくり

幼・保、小、中、高の一貫教育の推進

～小豆島中央高校を頂点とした一貫教育について、新しい枠組みで検討し、実践する～

小豆島中央高校教育後援会

高校の教育全体を支える新しい組織として、設立に向けて協議中

小豆島中央高校
(県教委高校教育課)



平成29年4月19日
小豆島教育会議を設立

小豆島町
教育委員会

土庄町
教育委員会

小豆島全体で
一貫教育に取り組む

小豆島教育会議

- 両町の教育長
- 小豆島中央高校の校長
- 両町の小・中学校長の代表
- 両町の幼・保の代表

取組の方針、年度
計画等の決定

専門部会

- 実務的な施策について、専門部会を設けて協議を行う
- 両町の校長・園長・所長
 - 両町の課長等

検討事項

1. 一貫教育の取組
2. 学校教育研究会等の設置
3. 交流授業の実施
4. 特別支援学校高等部の検討等

平成29年度実施決定

英語教育

- ①英語教育のあり方の協議
- ②小～高を通した教育課程の編成
- ③CAN-DOリストの作成等

考えられる一貫教育の実践例

体力・運動能力向上

- ①教職員の指導力向上の取組の協議
- ②部活動の交流等

コミュニケーション教育

- ①町と連携して取り組めるワークショップ等について協議

ふるさと教育

- ①連携して取り組める施策の協議
- ②ふるさとキャリア教育発表会
- ③オープンスクール等

子育ちの環境づくり【幼・保、小、中、高の一貫教育の推進】

目的	小豆島中央高校を頂点とした一貫教育について、新しい枠組みで検討する組織として「小豆島教育会議」を設立し、幼・保、小、中、高を通した一貫教育を推進する。		
内 容	平成29年4月19日に、小豆島中央高校(県教委)、小豆島町教育委員会、土庄町教育委員会で構成する「小豆島教育会議」を設立した。 構成員は、①両町の教育長、②小豆島中央高校の校長、③両町の小学校の校長代表、④両町の中学校の校長代表、⑤両町の幼・保の代表とする。 一貫教育の取組例として、①英語教育、②体力・運動能力向上、③コミュニケーション教育、④ふるさと教育等について、検討を行う。 英語教育については、平成29年度に専門部会を設置し、取り組むことを決定する。	主管課 現状 目標年度 目標数等	学校教育課 平成29年4月19日に、小豆島教育会議を設立 継続して実施する 一貫教育に取り組むことにより、子どもの健やかな成長を応援する。

教育・保育事業の量の見込みと確保方策

〈 確保方策 〉		27年度				28年度			
区分	1号 (幼稚園)	2号 (保育所)	3号(保育所)		1号 (幼稚園)	2号 (保育所)	3号(保育所)		
			0歳	1・2歳			0歳	1・2歳	
量の見込み ①	150人	138人	34人	97人	149人	136人	35人	97人	
確保方策②	特定教育・保育施設	540人	126人	29人	95人	540人	128人	35人	107人
	特定地域型保育								
差 ② - ①	390人	△12人	△5人	△2人	391人	△8人	0人	10人	
〈 実 績 〉									
受入数	年度当初4月1日	127人	144人	7人	97人	104人	139人	9人	103人
	年度末3月31日 ③	128人	143人	36人	105人	100人	143人	37人	114人
差 ② - ③	412人	△17人	△6人	△10人	440人	△15人	△2人	△7人	

※ 平成28年度、1私立保育所が定員を20名増やした。

※ 差②-③は、マイナス表示(定員不足)だが、「保育所への入所の円滑化について」(平成10年2月13日児発第73号)に基づいた受入れを行っており、待機児童は発生していない。

〈確保方策〉

年 度		29年度				30年度			
区 分	(幼稚園)	2号 (保育所)	3号(保育所)		1号 (幼稚園)	2号 (保育所)	3号(保育所)		
			0歳	1・2歳			0歳	1・2歳	
量の見込み ①	148人	135人	37人	101人	147人	135人	37人	101人	
確保方策②	特定教育・保育施設	555人	154人	38人	113人	555人	154人	38人	113人
	特定地域型保育								
差 ② - ①	407人	19人	1人	12人	408人	19人	1人	12人	

※ 平成29年4月、1私立保育所が幼保連携型認定こども園となり、1号定員を15名、2・3号定員を20名増の定員155名とした。

※ 今後、1公立保育所の定員超過状況が続く場合、定員の見直しを行う。

年 度		31年度			
区 分		1号	2号	3号	
量の見込み ①	146人	135人	37人	101人	
確保方策②	特定教育・保育施設	555人	154人	38人	113人
	特定地域型保育				
差 ② - ①	409人	19人	1人	12人	

地域子ども・子育て支援事業 量の見込みと確保方策

《ファミリー・サポート・センター事業》

乳幼児や小学生等の児童を有する子育て中の保護者を会員として、児童の預かり等の援助を受けることを希望する者と当該援助を行うことを希望する者との相互援助活動に関する連絡、調整を行う事業

〈量の見込み〉

※数値は実人数

利用者数	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
就学前児童	90人	90人	90人	90人	90人

〈確保方策〉

利用者数	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
就学前児童	90人	90人	90人	90人	90人

〈実績〉

利用者数	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
就学前児童	0人	0人	—	—	—

○平成27年度から保護者に代わり病児を小豆島中央病院病児・病後室へ搬送するサポート事業を開始した。

《延長保育事業》

保育認定を受けた子どもについて、通常の利用日及び利用時間以外の日及び時間において、認定こども園、保育所等において保育を実施する事業

〈量の見込み〉

※数値は月平均実人数

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
利用者数	14人	50人	50人	50人	50人

〈確保方策〉

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
利用者数	14人	50人	50人	50人	50人

〈実績〉

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
利用者数	50人	28人	—	—	—

○19時までの延長保育を始めた。見込みを上回る利用があった。今後も基準に則り職員を配置しニーズに適正に対応する。

≪利用者支援事業≫

子ども又はその保護者の身近な場所で、教育・保育施設や地域の子育て支援事業等の情報提供及び必要に応じ相談・助言等を行うとともに、関係機関との連絡調整等を実施する事業

〈量の見込み〉

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
箇所数	1	1	1	1	1
	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度

〈確保方策〉

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
箇所数	1	1	1	1	1
	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度

〈実績〉

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
箇所数	1	1	1	1	1
	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度

○本格実施までの間、かがわ健やか子ども基金事業を活用し、支援員の育成を行う。

≪地域子育て支援拠点事業≫

乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行う事業

〈量の見込み〉

※人数は延べ数

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
利用者数	5,416人	7,715人	7,715人	7,715人	7,715人

〈確保方策〉

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
利用者数	5,416人	7,715人	7,715人	7,715人	7,715人

〈実績〉

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
利用者数	7,715人	7,147人	—	—	—

○現在、2か所で事業を実施している。情報発信、利用しやすい環境づくりにより、見込みを上回る利用があった。今後も事業の一層の充実を図る。

≪一時預かり事業≫

家庭において保育を受けることが一時的に困難となった乳幼児について、主として昼間において、認定こども園、幼稚園、保育所、地域子育て支援拠点、その他の場所において、一時的に預かり、必要な保護を行う事業

〈量の見込み〉

※人数は延べ数

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
幼稚園	733人	751人	770人	789人	809人
その他施設	1,251人	1,376人	1,494人	1,494人	1,494人

〈確保方策〉

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
幼稚園	733人	751人	770人	789人	809人
その他施設	1,251人	1,376人	1,494人	1,494人	1,494人

〈実績〉

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
幼稚園	548人	467人	—	—	—
その他施設	1,376人	1,494人	—	—	—

○各幼稚園や保育所、NPO法人の4か所で適正に受け入れする。

《放課後児童クラブ事業》

保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校に就学している児童に対し、授業の終了後に小学校の余裕教室、児童館等を利用して適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図る事業

〈量の見込み〉

※数値は年間平均人数

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
利用者数	125人	125人	136人	136人	136人

〈確保方策〉

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
利用者数	125人	125人	136人	136人	136人

〈実績〉

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
利用者数	103人	136人	—	—	—

○3施設で適正に受け入れする。

≪病児保育事業≫

病児について、病院・保育所等に敷設された専用スペース等において、看護師等が一時的に保育等する事業

〈量の見込み〉

※人数は延べ数

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
利用者数	570人	599人	628人	660人	693人

〈確保方策〉

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
利用者数	570人	599人	628人	660人	693人

〈実績〉

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
利用者数	468人	403人	—	—	—

○平成28年度に開院した小豆島中央病院でも病児・病後児保育事業を実施している。

≪子育て短期支援事業≫

保護者の疾病等の理由により家庭において養育を受けることが一時的に困難となった児童について、児童養護施設等に入所させ、必要な保護を行う事業(短期入所生活援助事業及び夜間養護等事業)

〈量の見込み〉

※数値は実数

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
利用者数	16人	16人	16人	16人	16人

〈確保方策〉

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
箇所数	0	0	0	0	0

〈実績〉

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
箇所数	0	0	—	—	—

○ニーズ調査の結果、ニーズ量が少ないとから、今回の計画期間内での設置は行わないこととする。

《妊婦健康診査》

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
受診数見込み	1,032人	1,032人	1,032人	1,032人	1,032人
実 績	965人	1,035人	—	—	—
妊娠届出数見込み	86人	86人	85人	85人	85人
実 績	83人	65人	—	—	—

《養育支援訪問事業》

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
対象者数見込み	9人	9人	4人	4人	4人
実 績 (訪問回数)	2人 (24回)	2人 (33回)	—	—	—

《乳児家庭全戸訪問事業》

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
乳児数見込み	86人	86人	85人	85人	85人
実 績	61人	70人	—	—	—

